

令和6年度「宮代の自然と歴史・文化を愛する会」活動報告（概要）

【文化財・史跡啓発事業】

－「たるい竹あかり2024フェスタ（真禅院）」

8月17日(土)

参加者 約7000人

『垂井町の魅力ある場所をいつもと違う空間にして、多くの皆様に足を運んで頂き垂井町の魅力を再確認し、町外から足を運ぶ方達にも垂井の良さを伝えたい。』と、今年も朝倉真禅院境内を中心に付近一体で開催されました。

当会（愛する会）としても、真禅院の貴重な文化財を周知啓発していく良い機会として、国指定重要文化財の本地堂・三重塔・梵鐘や県指定の鐘楼、町指定の観音堂などの案内ガイドを行ないました。



今年は、特に朝倉山真禅院の魅力を広めるため境内を竹灯籠で埋め尽くし、三重塔はライトアップ。本地堂・観音堂はLEDライトを点灯。真禅院境内は「竹灯り」のみで、自然な雰囲気造りを演出しました。

当日は、去年の二倍の8千本の「竹灯り」が置かれ、大小さまざまな「竹灯り」が灯され、鮮やかな光で彩られ、家族ずれなど約7千人が自然の中での神秘的な雰囲気を楽しんだ。

その他、約20軒のキッチンカーやマルシェも出店し大いに盛り上がった。



【歴史文化講演会】

「南宮山と関ヶ原合戦」

11月23日(土)

参加者 約110人

「第65回宮代地区文化祭」の開催に合わせて、協賛事業として歴史文化講演会を開催しました。

誰もが知っている関ヶ原合戦。しかし、この地域で『どういう戦いがあり』『何が起きたか』など、具体的な詳しい状況はあまり紹介されていないので、今回は講師に「草野道雄様(前関ヶ原歴史民俗学習館長(元府中小学校長))」を



お招きして、関ヶ原合戦と南宮山との関係を解説いただく事としました。

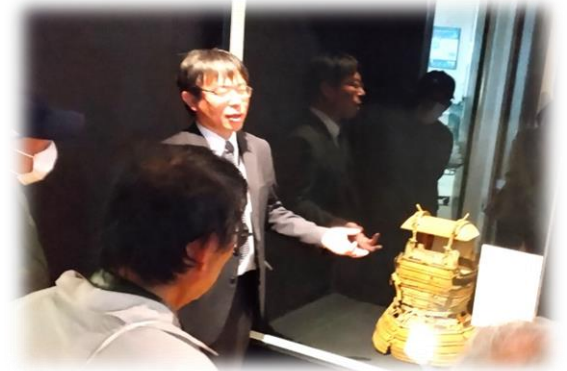
当日は、宮代小学校体育館で9時からの文化祭開会式に引き続き講演会を開催しました。

地域の住民約110名が熱心に聞き入り、南宮山に布陣した西軍の位置取りや赤坂のお勝山東軍の動きまた、宮代小学校初代校長神谷道一氏が関ヶ原合戦時の陣跡を比定した「関原合戦図志」の功績についても解説いただきました。



垂井町合併70周年記念とタリイピアセンター開館30周年プレ企画として、第58回企画展「垂井と刀剣の世界Ⅱ」が開催されました。

垂井町には金物の総本山南宮大社が鎮座し、この地域には赤坂を拠点とした刀工たちによって名品が生み出され、後に日本を代表する5つの日本刀生産地「五箇伝」の一つに数えられる「美濃伝」の基礎が築かれたところであり、この地域ゆかりの刀剣が展示されました。



折角の機会であり、会員限定対象の『刀剣展現地解説会』を開催しました。

当日は11名の会員が集まり、原田学芸員から企画展の趣旨や展示された個々の刀剣の解説をいただきました。

特に、南宮大社社宝の刀剣が多く展示され、今後の宝物殿や南宮大社案内ボランティアとしての解説に大いに参考となりました。

その他「朝倉真禅院の鉄塔」が展示されており、普段直接見られない必見の秘宝でもあり、上層の菩薩像、下層の四天王寺像が鮮明に見られ大いに参考となりました。

飛鳥時代の672年に起きた「壬申の乱」は、古代史上最大の内乱と呼ばれ、天智天皇の弟大海人皇子と息子大友皇子が皇位をめぐって、骨肉の争いが繰広げました。その最初の舞台となったのが美濃地方西部の当地域で、宮代から野上付近が主要拠点と言われています。

今回は、宮代地区の歴史文化の中で重要な位置を占め、なお明確な全体像が見えない「壬申の乱」について、近隣の関係する史跡を訪問し専門家から具体的な解説を頂くことを目的とした会員中心の「壬申の乱」現地研修会を開催しました。

当日は、会員を中心に34名が参加、9時に南宮大社駐車場(洋ランセンター南)を出発。最初に関ヶ原町野上地区の大海人皇子(後の天武天皇)が本営とした「野上行宮跡」を訪れ、東山道の要・濃尾平野を見下ろす絶景の跡地を確認しました。その後、垂井町伊吹に「伊富岐神社」を訪ねた。古くからこの地の豪族であった伊福氏の祖神を祀る神社といわれ、一説には壬申の乱に大海人皇子のために野上の行宮に奉仕したともいわれている。

続いて、「不破関資料館」を訪ね、飯沼館長から大海人皇子が兜を外して掛けた兜掛石や沓脱石など現地解説をいただいた。

午後からは、南宮大社にかかわる「鉄」の文化に関して米原市の「伊吹山文化資料館」を訪ね、高橋学芸員から『神が息吹く山の古代製鉄』として伊吹山周辺の製鉄遺跡について講演をいただき、『始原的な製鉄技術には「伊吹おろし」に代表される強い風の神の「息吹き」が必要であり、山麓を拠点とする古代豪族「息長氏」「伊福部氏」などが鉄生産に関わり、この伊吹山麓は古代製鉄にとって重要な地域』と解説された。



【自然観察教室(千之子ども教室)】

-モリアオガエル(天然記念物)の観察-

6月17日(月)

宮代小学校4年生 24名

恒例の「千之子ども教室」で毎年宮代小の4年生を対象に自然観察会を開催しています。

今年は、朝倉運動公園のビオトープ池を訪れ天然記念物のモリアオガエルの”たまご”を探しました。

モリアオガエルは、繁殖期になると池畔に張り出した灌木樹枝上に点々と白色泡袋状の卵塊を産み付け、孵化後は直接水中に落ちて変態する修正を持ち、宮代地域はその群生地として岐阜県の天然記念物に指定されています。

池では張り出した枝の中に白い卵塊を数個見つけました。



講師の廣岡会長からは、モリアオガエルは山から自分の生まれた池に来て産卵することや孵化後のオタマジャクシの生態を勉強しました。

その後前日に確保しておいたイモリとヤモリを見ながらその生態を勉強し、イモリは井戸や田んぼの中で見かけるので「井守」と呼ばれ、ヤモリは民家の壁などで見かけ「家守」と呼ばれている。

イモリは両生類で、カエルやサンショウウオと同じ仲間、ヤモリは爬虫類で、トカゲやヘビと同じ仲間になりその違いを勉強しました。



【歴史文化教室(千之子ども教室)】

-「壬申の乱の関連史跡を訪ねて」

10月10日(木)

宮代小学校 6年生33名

恒例の「千之子ども教室」で毎年宮代小の6年生を対象に、宮代地区内に伝えられている「壬申の乱」にまつわる関連史跡を訪ねています。

最初に、「美濃国一宮の南宮大社」正面交差点角に建つ道標を訪れた。この道標は江戸時代天保年間1840年に垂井宿の油屋卯吉が建立したもので、「右 たる井道」「右 いせ やうらう たかた道」「左 たる井 ぜんくうじ 多るぐみ道」などと彫られており重要な交通の要衝であったことが偲ばれます。

その後、南宮大社の社家社僧の菩提寺である正行院を訪れ、住職から寺の由緒を説明頂いた。関ヶ原合戦で焼却した南宮大社の仮社殿が1611年徳川家康により建立、その後徳川家光により現在の南宮大社が再興されたが、再興の際仮社殿で使われていた天井画は正行院に移築され、見事な天井画を引き継いでいます。

その後、1350年前の「壬申の乱」時に、桑名から栗原山の麓を通り境野から森下地内に騎行してきたと言われる宮代古道沿いの大峯地区を訪れ、大海人皇子が腰掛けた”腰掛石”や兜を置いた”兜掛石”を訪れました。

また、乱の最中に大海人皇子が逃げ込んだ伝説の大杉跡、勝ち栗を家紋として伝えている話に耳を傾けました。

その後は、県下最大級の古代寺院跡の宮代廃寺跡を見学、瓦のかけらや三重塔の基礎石(心礎)の説明を受けました。

最後に、壬申の乱で多大な功績を認められ”外従五位下”を授けられ不破の大領となった宮勝木実を祀る大領神社を訪れ「壬申の乱」の詳細な解説を頂きました。



【史跡環境整備事業】

南宮山ハイキングコースに距離表示板を設置

7月3日

7名

南宮山ハイキングコースは年間約1万人の利用者があり、毎日利用されるなど親しまれています。今後も更に利用者の利便を図るためとして、登山口から展望台(毛利陣城跡)までの約2kmのコース沿いに、200m毎に距離表示を行いました。

この取組みは、垂井町の団体提案型協働事業の認定を受け、「アルミ製複合版(文字シート張)」を業者発注し、取付け作業は会員7名で行ないました。

これにより、利用者の安全(緊急時場所通報)と利便性(安心感)が高められるものと考えています。

ハイキングコース 表示板(距離/高度)

	距離(m)	高度(m)
0/10	0	80
1/10	200	107
2/10	400	158
3/10	600	201
4/10	800	252
5/10	1,000	280
6/10	1,200	321
7/10	1,400	342
8/10	1,600	374
9/10	1,800	382
10/10	2,000	404



【史跡環境整備事業】

南宮山陣城跡に遺構名を設置

9月30日

7名

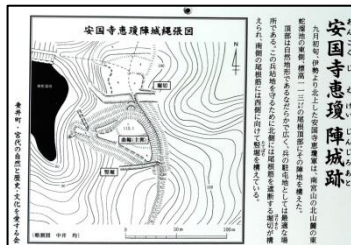
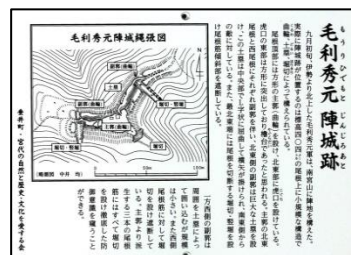
南宮山ハイキングコースには二つの陣城跡があり、展望台の毛利秀元陣城跡や登山口付近の安国寺恵瓊陣城跡は”縄張図”も明確に残っている。また、コース上には多くの石垣が残る寺院跡もあり、明確に周知されていなかった。

5年度から町提案型協働事業に応募し「南宮山陣城・史跡の表示整備」として助成を受け、「毛利秀元陣城跡」「安国寺恵瓊陣城跡」「南宮十坊宝珠院跡」「南宮十坊千手院跡」の案内表示板をコース上に設置しました。

今年度は、その陣城跡の遺構名の表示を行い利用者に周知することとし、

毛利秀元・安国寺恵瓊両陣城跡に、「主郭(曲輪)」「副郭(曲輪)」「土塁」「堀切」「竪堀」「堀切・竪堀」など、縄張図に基づき案内表示板を設置しました。

案内表示板は木製・A4版で、文字は文字カッティングマシーンで会員が制作丸杭に取付けそれぞれ設置しました。



【陣跡史跡環境整備事業】

南宮山ハイキングコース・陣跡の点検整備

四半期毎

7/3、9/30、12/26、2/26

当地域の自然や史跡・文化財の保全整備も重要な活動の一つ。

特に、年間1万人近い利用者がある南宮山ハイキングコースと南宮山麓の陣城跡・史跡を定期的に点検して軽微な補修などの整備をおこなっています。

今年度も四半期に一回、会員がコースの点検と陣城・史跡跡の整備に登山をして、階段などの異常個所の点検と陣城跡の長旗や棹の点検・草刈を行なっています。



宮代観光案内所・南宮大社宝物殿 来訪者数

令和6年4月～令和7年3月							(単位:人)
月	観光案内所			宝物殿			
	今年度	前年度	対前年比	今年度	前年度	対前年比	
4月	391	459	85.2%	284	227	125.1%	
5月	356	828	43.0%	223	224	99.6%	
6月	225	592	38.0%	375	147	255.1%	
7月	288	223	129.1%	156	190	82.1%	
8月	151	207	72.9%	177	176	100.6%	
9月	275	174	158.0%	295	199	148.2%	
10月	171	252	67.9%	259	226	114.6%	
11月	217	367	59.1%	623	507	122.9%	
12月	81	272	29.8%	136	197	69.0%	
1月	149	283	52.7%	315	352	89.5%	
2月	87	373	23.3%	212	376	56.4%	
3月	324	653	49.6%	292	322	90.7%	
合計	2,715	4,683	58.0%	3,347	3,143	106.5%	

南宮山(毛利陣跡)登頂者数

令和6年4月～令和7年3月				(単位:人)
月	今年度	前年度	対前年比	
4月	815	738	1.10	
5月	631	941	0.67	
6月	544	578	0.94	
7月	408	603	0.68	
8月	450	577	0.78	
9月	622	642	0.97	
10月	645	700	0.92	
11月	719	564	1.27	
12月	429	0	-	
1月	665	454	1.46	
2月	327	573	-	
3月	718	444	1.62	
合計	6,973	6,814	1.02	